

平成21(2009)年12月5日第29号

学校だより

祝・海外子女文芸作品コンクール特別賞
俳句の部 東京海上日動火災保険賞
小6B 今村尚子(山鹿学級)

ゆきだるま ころがしすぎて だろだらけ

祝・海外子女文芸作品コンクール特選
作文の部 「小さな勇気、大きなキセキ」
小6A 藤縄郁花(仲本学級)

「学校もう、行きたくない！」

月曜日の朝はこのセリフで始まる。ノルウェーのインターナショナルスクールから、アメリカの現地校へ移って約三年が経とうとしていた。しかし、なかなか学校になじめない。心を許せる友達がいらない。いじめられる。もうヤダ。限界だ。

ノルウェーの学校では、楽しい授業が沢山あった。水泳レッスン、クロスカントリー、ノルウェー語のレッスンなどなど。様々な国から来ている子達とすぐに仲良くなった。毎週水曜日はホットドッグデーといい、母達が五百個以上のホットドッグを作ってくれる。私がイヤー2、二年生のころ、授業で「ストーン・スープ」という話を讀んだ。そこで、実際その話に出て来たように、クラス全員でスープを作ることにした。みんな一つずつスープに入れる材料を家から持って来て、大きななべでぐつぐつ煮る。いろんな味がとけ込んで、とてもおいしいスープが出来上がった。心に残る一日だった。

そして四年前、ヒューストンに引っ越して来た私は、弟といっしょに家の近くにある小学校に通い始めた。しかし、三年生になったころから、何人かの同級生からいじめを受けるようになった。私の名前を変なふうと呼んだり、

「日本の首都は中国にある！」とか、

「ノルウェーって本当にダサイ国だよな。」

など、いろいろなひどい事を言われ続けた。自分の事をいわれるのはまだガマン出来るけれど、自分の国や、住んだ経験のある国をバカにされるなんて許せなかった。四年生になる時、母は校長先生に手紙を書き、いじめをする子達と違うクラスにするように頼んだ。しかし、まるでノンストップのビデオのように、クラス

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077

Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

は変わっても、言葉のいじめは続き、私の心はどんどん縮んでいった。父も母も、

「郁花、学校を変えよう。」

と、言うけれど、私は学校を変える勇気がなかった。家族にめいわくをかけるかな？親しかった友達に悪いかな？学校を変えても、また同じ状況だったらどうしよう。決心をするには勇気が必要だった。でも私は決めた。小学校最後の年にキセキを起こす、と。この気持ち私を母に宣言した。

それから間もなく、五年生になって一週間ほどたったある日、母が突然私にこう言った。

「郁花、明日体験入学してみない？」

「えっ？体験入学？」

私は心底おどろいた。まさかこんなに早く体験入学が出来ると！夢のような話だ。

体験入学をした学校は、ヨークシャー・アカデミーという小さな私立の学校だった。みんな明るくて元気だけれど、勉強をする時はものすごく集中している。そんな生徒が集まっていた。体験入学の一日目が終わった時、みんなが口々に言ってくれた。

「アヤカ、明日もまた来る？」

「この学校においでよ！」

「ランチ、おいしかったら？」

この時、私は心に誓った。今日から私はヨークシャーの生徒になる！と。

翌日から私はこの学校に通い始めた。とにかく毎日が楽しい。私の担任の先生が、リーディングを面白く教えてくれたおかげで、それまでは苦手だったリーディングが大好きな教科になった。新しい事にも挑戦出来た。「オシャレ・キャット」というミュージカルで、私は子猫のマリー役を演じた。以前は大嫌いだった、人の前で何かをするということが、出来る様になった。たくさんの応援してくれる友達がいたからこそ、楽しく出来たしがんばれたのだと思う。

五月二十七日。いよいよヨークシャー・アカデミー卒業の日が来た。この日のために、私達卒業生は、それぞれ自分の卒業スピーチを用意していた。式が始まり、卒業生一人ひとりがマイクの前に立った。私の番がきて、スピーチを讀み始めると、巻き戻し中のテープのように記憶が次々とよみがえった。最初の学校での苦しい思い出。学校を変える決心をした日。新しい学校での楽しい毎日。友達と一緒に放課後遊んだり、スリープオーバーを沢山体験した事など、(次頁に続)

ヨークシャーでの思い出はきらきら輝いている。

この一年間で、いろいろな事に自信を持てる様になり、自分の意見を言える様になった。キュンと縮んでいた昔の自分は、私のまわりにおいてくれる人達の温かな心で、焼きたてのパンのようにふんわりふくらんだ。

小さな勇気が、大きなキセキを起こしてくれた。

第30回海外子女文芸作品コンクールメモ

- ①海外各地からの応募作品総数 28, 878点
 - ②内、作文は4.016点、詩2.941点、短歌6.884点、俳句15.037点 でした。
 - ③俳句の部で、今村尚子さんが受賞した特別賞入賞者数は10人でした。
 - ④作文の部で、藤縄郁花さんが受賞した特選入賞者数は4人でした。
 - ⑤作文の部で、佳作入賞したミトラ健さんと堀晃希さんの作品は、次回掲載いたします。
- ※沢山の中での入賞おめでとう。うれしかった。

前号に続く「新聞記事を読む」……

中3 中山怜香 (国語科担当・宗吉)

計四千万円の損害賠償を求めるのは当たり前だと思う。自分の子供を亡くした親の悲しみはいじめた生徒の親には理解できないだろう。私は、この四人の生徒だけではなく、ほかの生徒や教師にも責任はあったと思う。いじめはそういう人たちによっていくらでも止められたのに、何もしなかったで女子生徒は自殺したのかもしれない。日本はこれからもさらにいじめ防止に取り組まないといけないと思う。

中3 萩田千津 (国語科担当・宗吉)

自分と同じくらいな歳の子が自殺したという事はとても残酷だなと思った。でも、その生徒の親が遺書に記されていた生徒を訴える事は少しおかしいと思った。その生徒達は、きっと自分達がどんなに悪い事をしたかということを知っているからと思ったからだ。自分の罪を考えて、今度はその生徒達が自殺してしまう可能性もある。どんな親でも自分の子が自分より早く死ぬのは望んでいない。自殺をした生徒とその親の気持ちも分かるが、訴えられる生徒達と親の気持ちを考えたらどうだろう。

中3 武井邦博 (国語科担当・宗吉)

僕はそんな四人の生徒に賠償金は求めません。なぜなら、それでは子供がお金と同じ意味に見えます。確かに自分の子供が自殺するのは悲しいですが、人間は長く生きていけません。そして、自殺した理由ももしかしたら親のミスだということがあり得る可能性があると思えます。その中二の両親はその四人の未来を壊しています。いじめは殺人です。ただ、親の心から生徒達の未来を見たらどうでしょう。

……校長が高等部に出した宿題の回答から……

10月31日、河島先生の代わりに進路指導の授業をしました。その際、自分の長所を10項目書き上げるよう求めました。「長所」だと思っている項目が色々ありました。少し以下に列挙します。(氏名は内緒)

- ①いつでも眠られる。 ②短時間で記憶できる
- ③悪いことをすぐに忘れられる。
- ④動物にやさしい。 ⑤ギブアップしない。
- ⑥悩まない。 ⑦誰とでも話せる。 ⑧社交的。
- ⑨緊張しない。⑩拘らないで受け入れられること
- ⑪ポジティブに考えられ事。 ⑫自分に素直。
- ⑬他の影響に惑わされない。
- ⑭冷静に物事を判断する。
- ⑮相手を敬う気持ち。 ⑯みんなと仲良くする。
- ⑰ユーモアがある。 ⑱限度が分かる。
- ⑳面倒見がよい

本当はもっと良いところがあると思いますが、本人が気付いていないのです。つまり、隠れた能力ですが、何もしないでいたら発見できません。それを引き出すのが学習です。物事に関する興味や関心を深めたり、体験する事などによって自分の世界を開拓し、新たな自分を発見する事です。読書や人と人の出会いなどは、新しい自己発見の道しるべの一つです。良いところが一杯あるんだよ君達！！

◆パトロール当番予定表12月12日◆

～よろしくお願いします～

	学年	順位	児童生徒氏名
★AM1リーダー	小3	37	中村もり
2		38	久和野恭平
3		39	島崎奏南
4		41	橋本輝
5		42	本村晏
6		44	中邑亮太
7		45	中村夏菜
★PM1リーダー	小3	46	塩田彩乃
2	小4	1	金山遼太郎
3		2	岡崎公士朗
4		3	古賀善二郎
5		4	太田美礼
6		5	山田枝菜
7		6	村上ニコラス大樹

転出：筒井きらら(小6B) 筒井かれん(中1B)
帰国されても、ヒューストンでの数々の思い出を糧として、勉学に精励し夢と希望の実現に邁進してください。